

釧路明輝高校のキャリア教育

北海道釧路明輝高等学校
校長 山本 明 敏

1 学校概要

(1) はじめに

本校は、平成19年4月、釧路市内の3つの高校（道立釧路北、道立釧路西、市立釧路星園）を再編統合し、1学年5学級の総合学科として開校した。校訓「輝ける挑戦者たれ」の下、自己実現できる生徒の育成を目指し、各高校の伝統を引き継ぎつつも、総合学科として新たな歴史を積み重ね、魅力ある、信頼される学校づくりに取り組んでいる。

(2) 学校教育目標（目指す生徒像）

未来の扉を開く、創造性豊かな人間の育成

- 知性を磨き、未来を創造する人間
- 徳性を高め、社会に貢献する人間
- 心身を鍛え、果敢に行動する人間

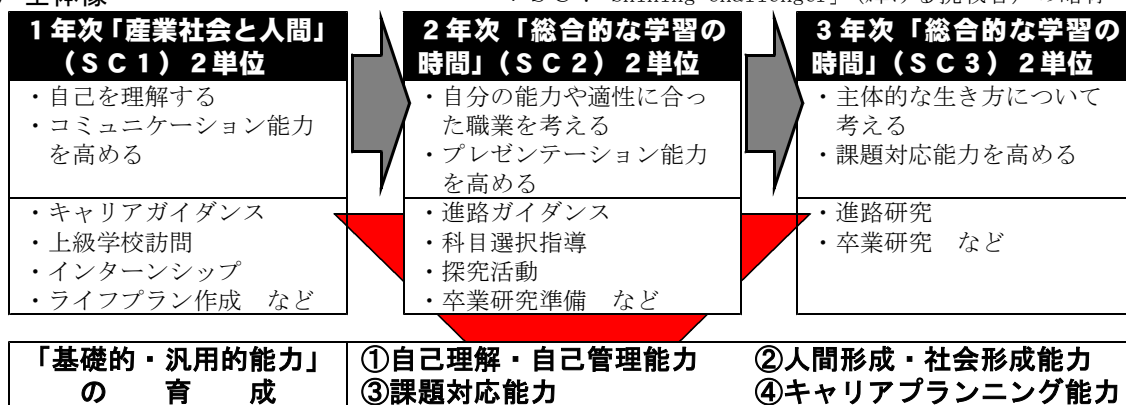
(3) 系列と特徴等

系 列	特 徴 等
人 文 学 科	主に国語、地理歴史や公民に関する科目において、我が国や諸外国の地理・歴史や文化に対する理解を深める能力と態度を身に付ける学習をする。
自 然 学 科	主に数学や理科に関する科目において、自然現象や自然環境に対する理解を深めるとともに、物事を数学的・科学的に考察し、処理する能力と態度を身に付ける学習をする。
国 際 理 解	主に外国語や国際理解に関する科目において、異文化に対する理解を深め、国際的な感覚と素養を養うとともに、国際理解に関する能力と態度を身に付ける学習をする。
グローバル ビ ジ ネ ス	主に商業・情報・国際理解を中心とした専門教科・科目において、異文化を受容し、理解しようとするとともに、社会人・職業人として求められる基本的な知識・技能を身に付ける学習をする。
メ デ ィ ア ・ アー ト	主に芸術・情報を中心とした専門教科・科目において、芸術に関する基本的な知識・技能を身に付けるとともに、表現作品を世界に向けて発信する手段・方法に関する理解を深める学習をする。
福祉・生活	主に福祉・家庭を中心とした専門教科・科目において、社会福祉の在り方や家庭の果たすべき役割、我が国と外国との福祉の差異等について理解を深める学習をする。

2 本校のキャリア教育

(1) 全体像

* S C : 「Shining Challenger」(輝ける挑戦者)の略称



(2)「産業社会と人間」における取組

ア 「上級学校訪問」

釧路市内に所在する大学2校、短期大学1校、専門学校2校を、生徒が各自の希望により訪問し、施設を見学するほか、模擬授業を体験することにより、自分の進路を考るきっかけとしている。

イ 「インターンシップ」

1年次生全員を対象に2日間のインターンシップを実施している。事後指導において、クラスごとにいくつかのグループをつくり、生徒がそれぞれの体験内容について報告し合い、シェアリングを行っている。



【インターンシップ】

ウ 「ライフプラン作成」

自分の人生設計をさせることを通して、今後の高校生活で取り組むべきことを考えさせ、進路希望に応じた科目選択に結びつける。また、「ライフプラン発表会」の実施により、プレゼンテーション能力の育成を図っている。

(3) 地域性を素材とした取組

ア 「アイヌ学」(国際理解系列・学校設定科目)

アイヌ民族の歴史や文化・工芸についての学習やアイヌ文様を用いた工芸品やイラストの制作を通して、アイヌの豊かな生活について理解を深め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、様々な文化を尊重する態度を養っている。



【アイヌ学】

イ 「北海道の自然」(自由選択科目・学校設定科目)

北海道の自然をテーマとし、地形、地質、気象、海洋、山地、湖沼などについての学習や、自然と人間生活の関わりについての考察を通して、持続可能な社会をつくることの重要性を理解し、自然環境の保全に寄与する態度を養っている。

(4) 成果と課題

ア 成果

- (7) 民間非常勤講師による特色ある授業や外部講師による講話、体験活動等を通して、幅広い職業観を養うとともに、自己の在り方や様々な進路について考える機会を提供することができた。
- (4) 生徒が自己理解を深め、能力や適性を考えて進路選択を行い、必要な科目を履修することにより、進学・就職とも希望する進路を実現することができた。

イ 課題

- (7) 生徒の能力を最大限に伸ばし、より高い進路目標を実現させるため、産業社会と人間及び総合的な学習の時間の実施内容・方法の改善が必要である。
- (4) 生徒の主体性やコミュニケーション能力を一層向上させるため、言語活動の充実や協働的な学習の導入など、教科・科目や産業社会と人間、総合的な学習の時間における指導方法の工夫・改善が必要である。